

安倍内閣 内閣改造人事について 会頭コメント

旧内閣は閣僚の問題発言や事務所費問題など、国民に強い不信感を抱かせ、参院選に大敗する原因となった。その意味で今回の人事は、国民の立場から評価できるかがポイントとなる。主要ポストには、経験豊かな方を配置し、尚且つ改革路線を継続し、地方活性化にも配慮したことは評価できる。

参院のねじれ現象により、議会運営は困難を極めると思うが、政局の混乱は現在の円・株の不安定な値動きに拍車をかけ、世界経済にも悪影響を及ぼすことになりかねない。日本にとって今何が最も重要かを見極め、必要な政策については民主党とも議論を尽くし、成立に向けて粘り強く取り組んでいただきたい。

安倍首相は憲法改正や教育改革関連法などを目指しておられるが、まずは足元の経済成長を確かなものとするのが重要だ。

新内閣には今まで進めてきた経済成長路線の軸がぶれることのないよう、徹底した歳出削減を遂行し、税財政改革を実現させるとともに、地方再生、中小企業振興に党を挙げて取り組むことにより、国民の信頼回復に繋げてほしい。

2007年8月27日

京都商工会議所

会頭 立石義雄